

1. 面接技法

個別行動目標(学習・評価項目を参照)

担当診療科・集合場所(時間割参照)・出席表参照

持ってくるもの

学習の手引き、資料、白衣、名札、筆記具

教材

シナリオ、カルテ用紙、面接技法Q&A、観察シート、アンケート(以上は当日渡します)、実習室、ホワイトボード、机と椅子

実習の進め方

教員の説明に従って、以下のように進めてください。

1. グループ作り。原則として3人1組をつくり、それぞれの役割(患者役・医師役・観察者)の順番を決めます。
2. 患者役は20分程度で各自1種類のシナリオを覚えます。シナリオは全部で3種類あります。医師役は資料に目を通します。
3. ロールプレイで面接を15～20分行います。はじめの面接が終わったら、観察者が中心となって、3人で10分程度ディスカッションした後、役割を交代してつぎの面接を行ってください。
4. 教員によるフィードバックを受け、全体で討論します。
5. アンケートに記入します。

ロールプレイ中の役割とコツ

① 患者役

できるだけシナリオの患者になりきり、医師役の面接を受けます。実際の患者さんの場合、記憶が曖昧であったり、話が前後したり、後で追加や訂正が行われることはしばしばあります。むしろ、そのような患者さんの話を会話しながら整理していき、病歴にまとめてカルテに残すことが医師の仕事です。その練習をロールプレイで行いますので、患者役は下記のように、必ずしもシナリオに忠実にこたえなければならないわけではありません。

1. シナリオのあらすじをスラスラと言ってしまうのではなく、医学的でない話、関連した話、家族の話、日常生活の話などを適当に混ぜるほうが現実の会話に近い。
2. シナリオに書かれていないことについて質問された場合。アドリブを混ぜても良い。「それはどうだったか覚えていません」「そんなことはなかったと思います」
3. 各々のできごとについて話す順番は前後しても構わない。
4. 話したりなかったことや間違えたことは、医師役が話を要約する時に追加や訂正をするとよい。
5. 閉じられた質問法で尋ねられたときは、主に「はい」「いいえ」を用いるか、質問されたことのみで答える。「それはいつから始まりましたか」→「そうですね、1ヶ月前です」(ここでうち切る)
6. 焦点をあてた質問法で尋ねられたときも話題の内容を越えて不必要に情報を提供しないこと。医師に尋ねられた範囲に対してのみ応えること。
「その痛みはどんな痛みですか」→「このところがキリキリと痛むときもあるし、それとは別に……」
7. 自由に話せるように促された時、自分に発言権を渡されたと思う時は「脱線しながら」しかし、詳しく「おしゃべり」していく。「それからどうなったんですか」→「ええ、それから実は近くの医者にかかって……」
8. 面接中に気づいたことをできるだけ覚えておいて、ディスカッションの時に発表する。

② 医師役

シナリオは、初めての患者から外来で病歴を聴く場面です。

待合室の患者を呼びにいく場面から始め、あいさつ・自己紹介から診察への導入までを行い、病歴と抽出した問題をカルテに記録してください。

- a. 話の展開が息詰まってきたら、要約の繰り返しや開かれた質問を行うとよい。
- b. 面接中に自分に起こった心の動きをできるだけ覚えておいて、ディスカッションの時に発表する。

③ 観察者

面接中は注意深く観察し、具体的な所見を観察シートに記録する。

面接終了後、ディスカッションの進行役をつとめる。

ロールプレイ後のディスカッションの手順

雑談にならないように、医師役→患者役→観察者の順に発現すること。

1. 医師役がカルテに記録した病歴と抽出した問題、面接中にやりにくかった点などを発表する。
2. 患者役が大まかなストーリー、患者役として特に訴えたかったこと、医師に聞きたかったことや、面接中に受けた印象、会話全体の雰囲気などの発表をする。
3. 観察者が面接中に観察した医師役の面接技法や患者役の反応などの気づいたことを発表する。
観察者はディスカッションで出た意見や疑問の点を記録しておき、全体討論で利用する。

ロールプレイ後の自己練習

面接技法の練習はロールプレイを1回しただけでは全く足りません。この実習は自分で練習することを援助する機会にすぎませんので、資料を参考にして、小グループで集まりお互いに繰り返し練習してください。自分の疾病体験をもとにシナリオをつくって練習するのも良い方法です。